2024　東京会場

先生のための「夏休み経済教室」

# 経済の視点で歴史の授業を創る

練馬区立石神井西中学校　今村吾朗

# ■　自己紹介

**小学校教員として仕事をスタート**

↓

**中学生と高学年を指導**

↓

**３年間、一貫校作りに携わる**

↓

**東京都の教員として採用**

**歴史学習を現在に生かす。**

**意思決定**

小学校・**高等学校**とのつながり。

出来事の関連性、つながりの認知。

大きな流れで歴史をみることができないか。

**自ら問いをもち、追究する学習**

地域教材の開発

# ■　自己紹介

## 全小社　社会参画

第6学年　課題提案A

**『新しい日本、平和な日本へ』**

地域教材を取り上げ、

社会参画の意欲を育む戦後の学習

～戦後の復興が自分たちの住む地域にもあるという実感を通して～

## 全中社　歴史学習における構想

**提案授業Ⅱ**

**「過去の構想」と歴史の検証**

**「明治維新と近代国家の形成」**

**歴史学習と今の自分とをつなげること**

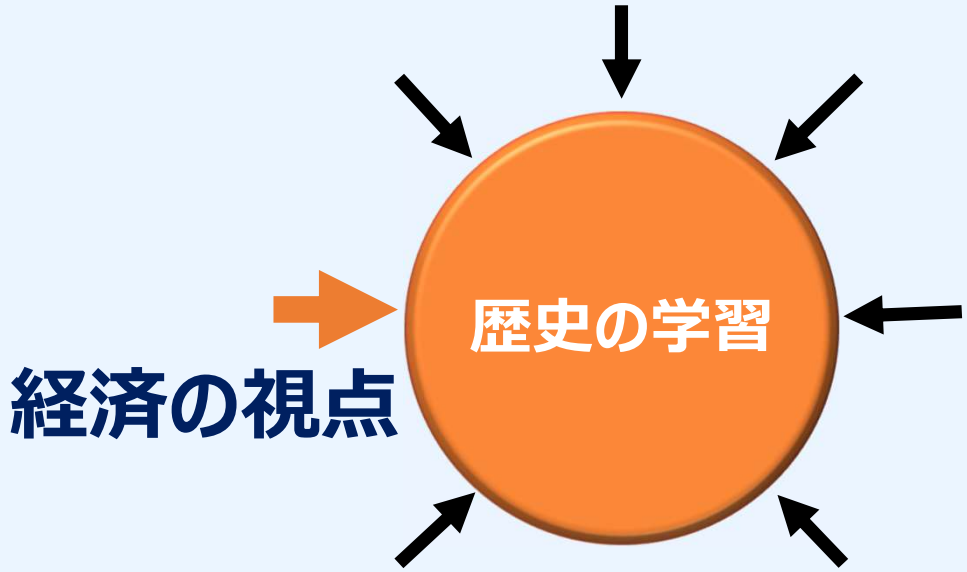
# ■　実践紹介

**歴史＋経済という学習にはしない**

歴史の学習 ＋ 経済の学習

難解で細かな内容が多くなる

**経済の視点を盛り込む**




**多面的・多角的な考察を促す**

# ■　実践の特徴

## 行動経済学の視点

**現代社会の問題を解決していくために**
**必要な資質・能力の育成**

↓

歴史の意思決定場面で**行動経済学の視点を加えて**考察

現在バイアス、プロスペクト理論、サンクコスト、リスキーシフト、同調性バイアス

# ■　実践の特徴

## 行動経済学

**経済活動**における**人間の行動**のメカニズムを**解明する学問**

↓

なぜ人はそのように行動するのか。なぜ、～～はしないのか。

↓

**では、どうすればよいのか。**

参考資料：相良奈美香,行動経済学が最強の学問である,SB Creative,2023年,p365

# ■　実践の特徴

## 行動経済学の視点

●私たちは日常的に伝統的な経済学が考える意思決定と違った**意思決定**をしている場合がある。

●合理的ではない、リアルな**人間の心理や考え方**

●行動経済学の視点から歴史を学ぶことができれば生徒たちの**よりよい意思決定**を促すことにつながる。

参考資料：大竹文雄,行動経済学の処方箋,中公新書,2022年,p236

## ■　実践の特徴

**主権者として**資質・能力に欠かせない視点

**～認知バイアス**に立ち向かう～

↓

**行動経済学の視点**を加えながら、考察を深めることで**認知バイアス**に気付き、**意思決定**に生かす

# ■ 行動経済学の視点

| | |
|---|---|
| 現状維持バイアス | 少子高齢化、人口減少、貧困、格差社会、気候変動などの社会問題は知っているが、今のままでよいと思う。 |
| 正常性バイアス | 様々な危機が予想されてはいるが、何となく大丈夫だろうと楽観視している。 |
| プロスペクト理論 | 「手術の成功率は95%」と「失敗率は５％」の印象はどちらも同じである？ |
| リスキーシフト | SNSや掲示板における書き込みは、個人の特定が難しいので、周りの意見も聞きながら、ついついて発言の内容が誇大化してしまう。 |

# ■ 行動経済学の視点

| | |
|---|---|
| 現状維持バイアス | 変化を好まない保守的な傾向と、たとえ一部の人に不利益があろうとも、現状を正当化したくなる傾向。 |
| 正常性バイアス | 非常事態への対応を避けたがる傾向。 |
| プロスペクト理論 | 「失敗率」を出されると嫌な気持ちになる。利益よりも損失を重く感じる傾向がある。 |
| リスキーシフト | １人であれば節度のある判断ができる人物であっても、集団になるとリスクの高い危険な判断をとりやすくなってしまうこと |

# ■　実践の特徴

## 仮説を立て追究

**学習課題**を設定する

↓

教科書や資料集で調べ、**仮説**を立てる。

↓

**自分の立てた仮説を追究しながら、学習課題の解決に向かう**

# ■　単元計画

## 近代の日本と世界　（オ）（カ）

**国際平和への努力**　　**人類全体に惨禍**

第一次世界大戦から学習する。
なぜその決断がなされたのか、背景を追究する。

**背景**：当時の政治体制　都市と農村の格差　**行動経済学**
日中戦争の長期化　メディアの力　軍部の台頭
これまでの戦争で勝利　国際協調の崩壊

# ■　単元計画

## 近代の日本と世界(オ)(カ)

単元で考えたい内容を先に学ぶ

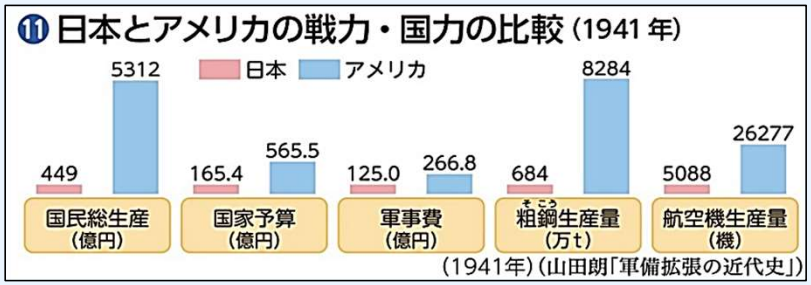
学習課題を立てる ▶ WWⅠの学習 ▶ 第９時 行動経済学 ▶ WWⅡの学習 ▶ 太平洋戦争の決断 ▶ 第19時 まとめ

**自分の立てた仮説を追究しながら、学習課題の解決に向かう**

# ■　単元の授業の導入

問いを作る工夫

**単元で考えたい内容を先に学ぶ。**




戦争したのは知っていたが、なぜ戦争したのか。勝てない・・・。人々はなぜ熱狂したのか。

ＮＨＫの映像資料
開戦時のラジオ放送

**初めに日米開戦について学習し、決断の背景に着目させる。**

# ■　単元の学習課題

## 学習課題

**なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争することを選択したのか。**

生徒の「なぜ？」を生かして、問いを設定するようにする

# ■　仮説をつくる

問いを作る工夫

## 単元で考えたい内容を先に学ぶ

(4) 二度の世界大戦の学習課題

「なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争する選択をしたのか。」

① 個人で調べて、予想を立ててみましょう。（～～～だったからではないか。など）

- 日露で勝てからではないか。　自信
- 第一次世界大戦のえいきょうで大きな利益をえたからではないか
- 第一次世界大戦で他の国弱っていると思ったからではないか
- 大戦中の船不足で日本の技術が発達、調子のっちゃったのではないか

② グループで調べ、予想を出し合おう。（予想を疑問形で書き出そう）

問の形でかきたそう。

- 第一次世界大戦で日本は何をえたのだろうか
- なぜ、国のリーダーは開戦をえらんだのか
- 日清，日露の勝利は日本に何をもたらしたのか
- なぜ、本当のことを国民につたえなかったのか

生徒Ａ

「なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争する選択をしたのか。」

① 個人で調べて、予想を立ててみましょう。（～～～だったからではないか。など）

- 日清、日露戦争でもある程度優利に動けたから　勝てる自信があったのではないか。
- 戦争により　国がまとまり，軍備品のじゅよう増加で経済が回り、景気良くなることを求めたのでは。

② グループで調べ、予想を出し合おう。（予想を疑問形で書き出そう）　5W1H

問いのかたち

what：賠償金や植民地を求めて？
when：中国との戦争にいきづまっていたころ　流れを変えたかった？
who：国民の期待や国の焦りを背負って
where：本土攻撃したかったから、奇襲？
why：ABCD包囲網をやぶりたかった

→ なぜ2つの戦争を同時に行ったのだろう。（日中，太平

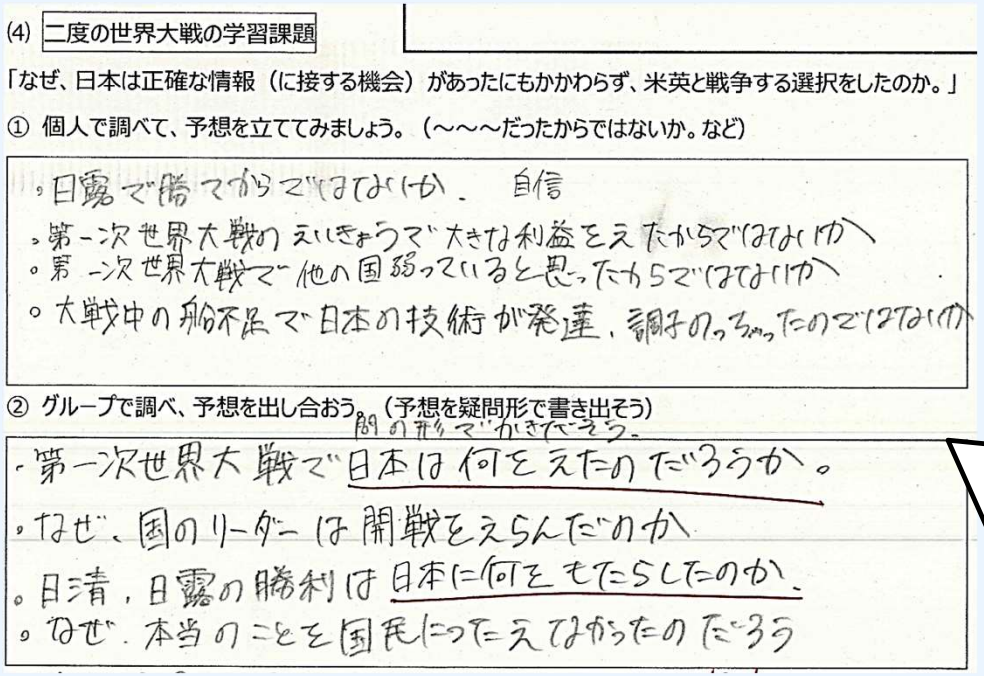
生徒Ｂ

**自分で仮説を作り、学習の見通しをもつ**

# ■　仮説をつくる

問いを作る工夫

## 単元で考えたい内容を先に学ぶ



(4) 二度の世界大戦の学習課題

「なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争する選択をしたのか。」

① 個人で調べて、予想を立ててみましょう。（～～～だったからではないか。など）

- 日露で勝てからではないか。　自信
- 第一次世界大戦のえいきょうで大きな利益をえたからではないか
- 第一次世界大戦で他の国弱っていると思ったからではないか
- 大戦中の船不足で日本の技術が発達、調子のっちゃったのではないか

② グループで調べ、予想を出し合おう。（予想を疑問形で書き出そう）

問の形でかきでそう。

- 第一次世界大戦で日本は何をえたのだろうか。
- なぜ、国のリーダーは開戦をえらんだのか
- 日清，日露の勝利は日本に何をもたらしたのか。
- なぜ、本当のことを国民につたえなかったのだろう

生徒Ａ

・日露戦争で勝てたから

・ＷＷＩの影響で大きな利益を得たから。

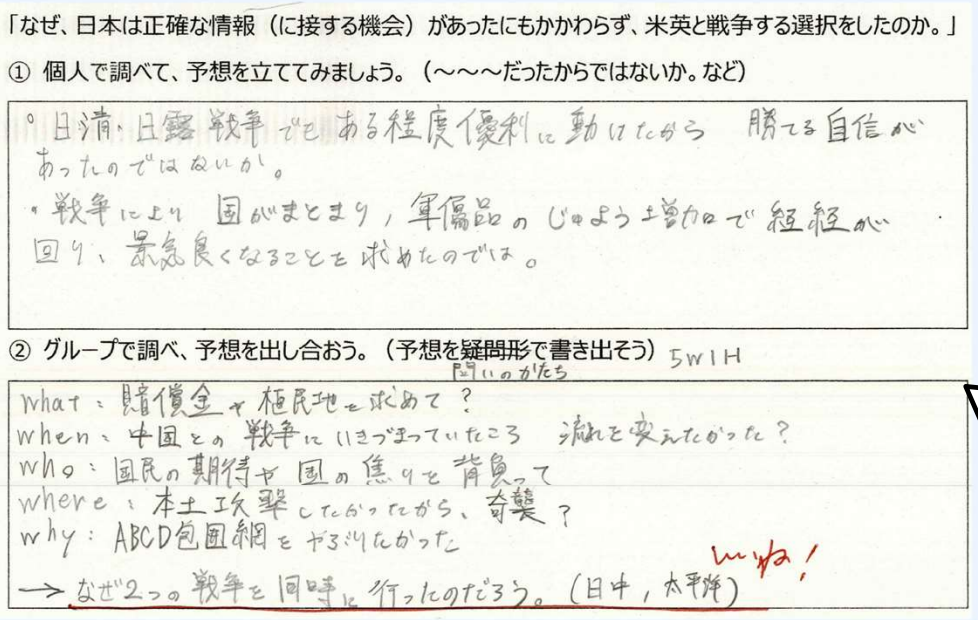
・日本の技術が発達、調子に乗った？

**自分の仮説を今後の授業と関連付けさせる**

# ■　仮説をつくる

問いを作る工夫

## 単元で考えたい内容を先に学ぶ


「なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争する選択をしたのか。」

① 個人で調べて、予想を立ててみましょう。（～～～だったからではないか。など）

・日清、日露戦争でもある程度優利に動けたから　勝てる自信があったのではないか。
・戦争により　国がまとまり，軍備品のじゅよう増加で経済が回り、景気良くなることを求めたのでは。

② グループで調べ、予想を出し合おう。（予想を疑問形で書き出そう）5W1H
問いのかたち

what：賠償金や植民地を求めて？
when：中国との戦争にいきづまっていたころ　流れを変えたかった？
who：国民の期待や国の焦りを背負って
where：本土攻撃したかったから、奇襲？
why：ABCD包囲網をやぶりたかった
→なぜ2つの戦争を同時に行ったのだろう。（日中，太平洋）
いいね！

生徒Ｂ

・日清、日露戦争の勝利で過信
・植民地を求めて？
・景気が良くなることを求めたのでは。

**自分の仮説を今後の授業と関連付けさせる**

# ■　課題を追究する

**学習課題**

なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争することを選択したのか。

学習課題を立てる ▶ WWⅠの学習

・第一次世界大戦　・大戦景気

・ロシア革命　・講和会議　国内の政治改革

・社会運動　大正期の文化

**前半 講義→中盤 各自調べ学習→終盤 振り返り**

# ■　毎時間の流れ

授業の流れ

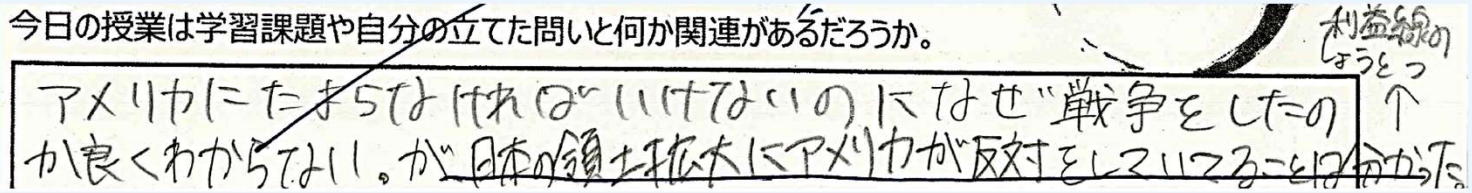
| | |
|---|---|
| **①導入** | 本時の授業に関する映像資料、統計資料、写真資料など内容に応じて、本時の問いにつながる資料を提示する。 |
| **②講義** | 本時の問いを解決するに必要な内容を教科書や資料集を中心に学習する。 |
| **③調べ学習** | 複数の資料を使いながら、本時の問いを深堀りしていくプリントをグループで取り組む。 |
| **④まとめ** | 学習課題、自らの問いと関連するものを中心に振り返り、分かったことや新たに出てきた問いなどを記入する。 |

# ■　毎時間の振り返り

授業の振り返り

**毎回回収　→　チェック　→　次の授業で紹介。導入とリンクさせる。**

第５時


今日の授業は学習課題や自分の立てた問いと何か関連があるだろうか。

利益線のしょうとつ

アメリカにたよらなければいけないのになぜ戦争をしたのか良くわからないし。が日本の領土拡大にアメリカが反対をしていることは分かった。

・戦争したのは分からないが、日米の対立の背景は分かった。

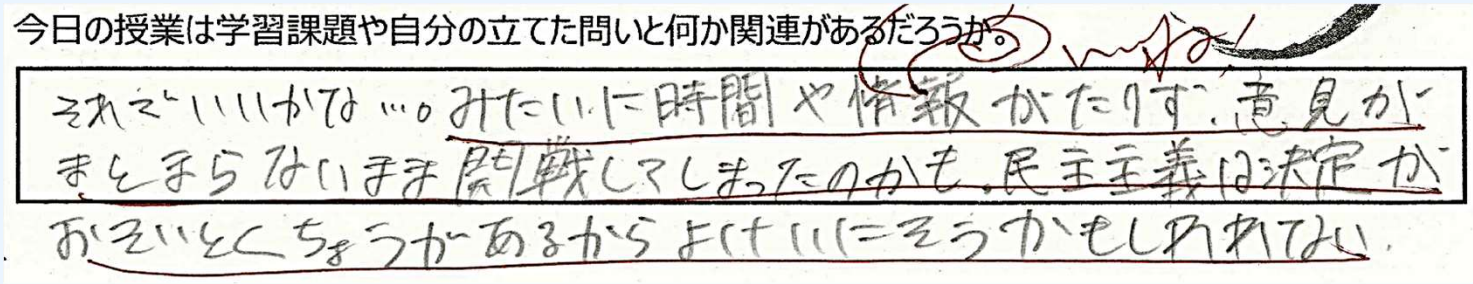
生徒Ａ

# ■　毎時間の振り返り

授業の振り返り

**毎回回収　→　チェック　→　次の授業で紹介。導入とリンクさせる。**

第６時


今日の授業は学習課題や自分の立てた問いと何か関連があるだろうか。

それでいいかな…。みたいに時間や情報がたりず、意見がまとまらないまま開戦してしまったのかも。民主主義は決定がおそいとくちょうがあるからよけいにそうかもしれない。

・それでいいかな、みたいに意見がまとまらないまま、開戦してしまったのかも。民主主義の特徴と関連があるかもしれない。

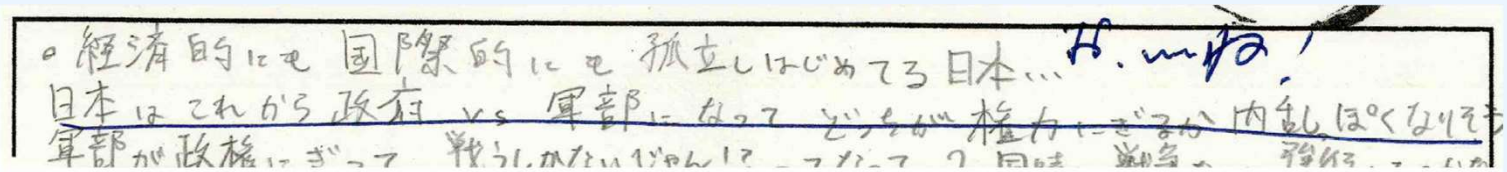
生徒Ａ

# ■　毎時間の振り返り

授業の振り返り

**毎回回収　→　チェック　→　次の授業で紹介。導入とリンクさせる。**

第５時




生徒Ｂ

・経済的にも国際的にも孤立し始めた日本
これから、政府vs軍部となるのではないか。

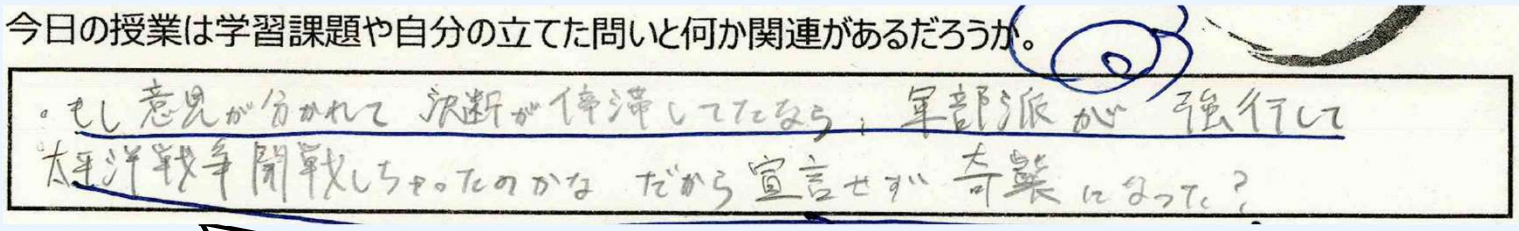
**調べ学習の時間はできる限り、机間指導し、学習状況を把握**

# ■　毎時間の振り返り

授業の振り返り

**毎回回収　→　チェック　→　次の授業で紹介。導入とリンクさせる。**

第６時


今日の授業は学習課題や自分の立てた問いと何か関連があるだろうか。

・もし意見が分かれて決断が停滞してたなら、軍部派が強行して太平洋戦争開戦しちゃったのかな　だから宣言せず奇襲になった？

・もし意見が分かれて、決断が停滞したら、軍部派が強硬して開戦を決断したのかもしれない。

**どのような学習状況か、クラスで追究状態を紹介する**

# ■　単元計画

**学習課題**

なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争することを選択したのか。

WWⅠの学習 ▶ **第９時 行動経済学** ▶

クイズ形式で楽しく学ぶ。

**（プリントを参照ください）**

# ■　授業について

行動経済学の視点を取り入れる

## 人間の判断は合理的でないことが多い?!

生徒A

行動経済学～認知バイアス～は、これまでの振り返り内容や自身の問いとどのような関連があ

日清，日露，WWI → 勝てると思っちゃんでいる → プラシーボ 正常バイアス

「戦争をしたい」と言えない人が思った周りをさんせいに振るかんな

かもしれない → 確証バイアス

～わ！

内集団バイアス ステレオタイプ化 → 外部の人の戦争反対をよく考え

ずにひていしてしまう。

現状維持バイアス → 一度すると決めたら、よくないと思っていても変えられない

人がいたかもしれない

# ■　授業について

行動経済学の視点を取り入れる

## 人間の判断は合理的でないことが多い?!

生徒B

行動経済学～認知バイアス～は、これまでの振り返り内容や自身の問いとどのような関連か

○明らか負けるし損失も大きくなるはずなのにやるしかない！って勝てるかもしれないだろ？って、プロスペクト理論的に開戦を決めたのかも。戦況が悪化してもサンクコストで続けようとしたのかも。民衆もみんな喜ぶなら私もよろこばないと、って同調性バイアスな人たちが多かったのかもしれない。勝てるかも！という思い込みもプラシーボ効果…
○成金な人たちも現状維持バイアスだったのかも～…（大戦景気）
○根拠だけじゃなく精神論で動いた戦争ってこの時代多かったのかもしれない
明確に「こういう現象」って証明されてなかったから…

## 行動経済学の視点と学習内容の関連付けはまだ曖昧

# ■　授業について

行動経済学の視点を取り入れる

| 名称 | 振り返りで出てきた数 |
|---|---|
| プラシーボ効果 | ３１ |
| 現在バイアス | 8 |
| 同調性バイアス | **４５** |
| プロスペクト理論 | **１６** |
| 確証バイアス | ２４ |
| サンクコスト | **３８** |
| 現状維持バイアス | 8 |
| 正常バイアス | ２６ |
| 内集団バイアス | 7 |
| リスキーシフト | **６３** |

**学習内容と関連付けがみられているが、分散している状態**

# ■　単元計画

**学習課題**

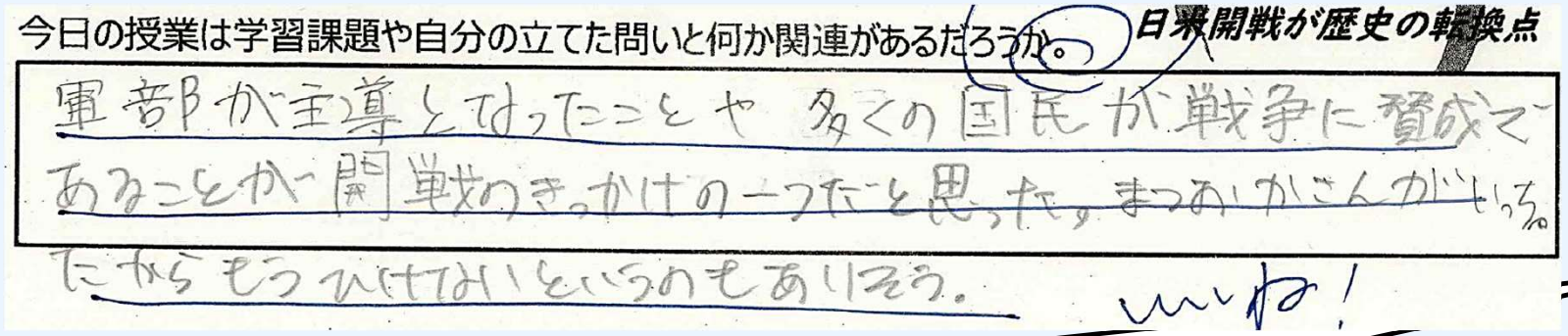
なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争することを選択したのか。

WWⅡの学習 ▶ 太平洋戦争の決断

- 世界恐慌　日本の不景気
- 国連の脱退　日中戦争
- 第二次世界大戦　日米開戦
- 戦況の悪化　終戦

# ■　毎時間の振り返り

授業の振り返り **（第12時）**


今日の授業は学習課題や自分の立てた問いと何か関連があるだろうか。　日米開戦が歴史の転換点

軍部が主導となったことや　多くの国民が戦争に賛成で
あることが開戦のきっかけの一つだと思った。まつおかさんがもう。
だからもうひけないというのもありそう。

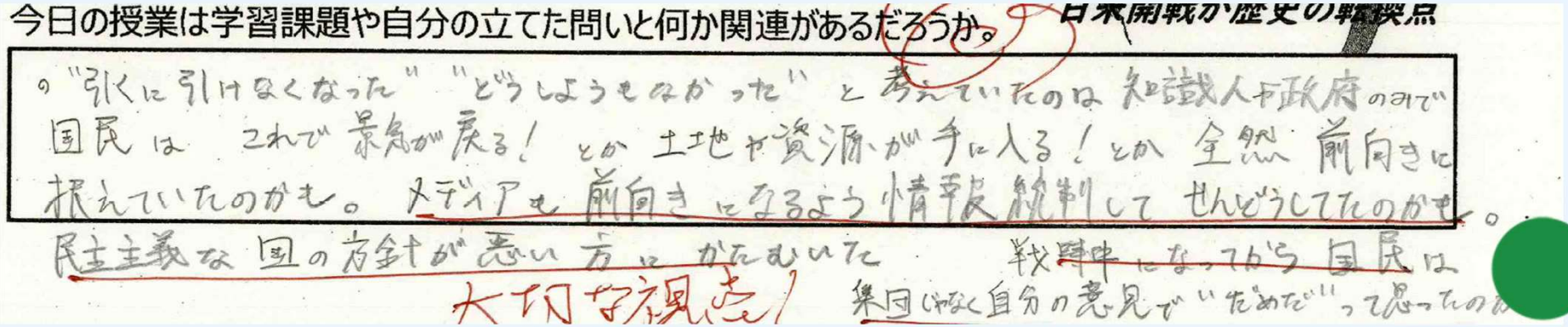
いいね！

・軍部が主導となったことや多くの国民が戦争に賛成であることが開戦のきっかけ。松岡洋右の行動からももう引けないというのもありそう。

**学習課題の解決にせまる内容は全体で共有する**

# ■　毎時間の振り返り

授業の振り返り **（第12時）**


今日の授業は学習課題や自分の立てた問いと何か関連があるだろうか。

の"引くに引けなくなった""どうしようもなかった"と考えていたのは知識人や政府のみで国民はこれで景気が戻る！とか土地や資源が手に入る！とか全然前向きに捉えていたのかも。メディアも前向きになるよう情報統制してせんどうしてたのかも。民主主義な国の方針が悪い方へかたむいた　戦時中になってから国民は

大切な視点！

集団じゃなく自分の意見でいだめだ"って思ってたのか

生徒Ｂ

・引くに引けなくなった、どうしようもなかった

・国民は開戦に前向き

**フォローが必要な部分は個別にできるだけ声掛け**

# ■　単元計画

**学習課題**

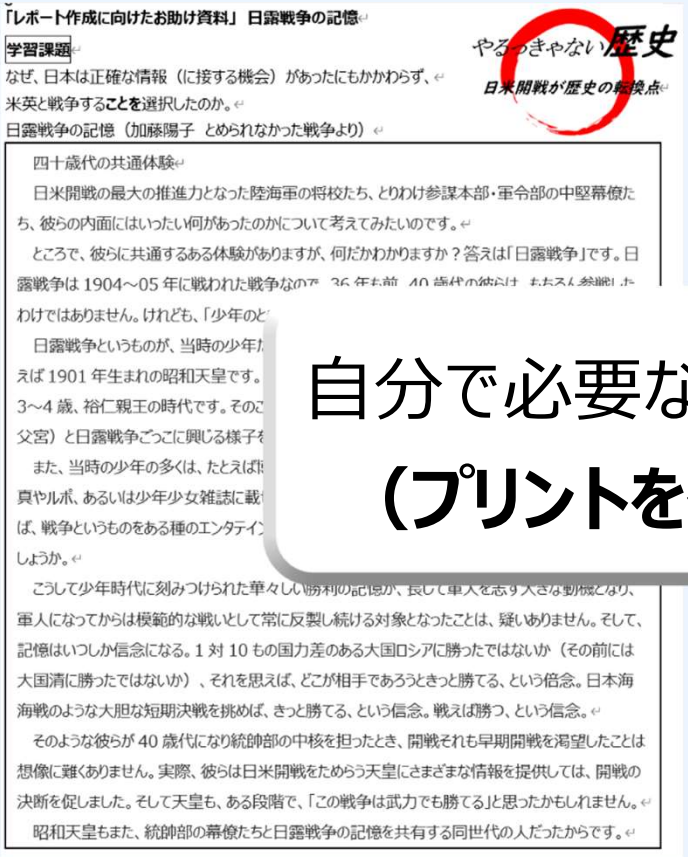
なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争することを選択したのか。

太平洋戦争の決断

**第19時**
**まとめ**

・屋台村形式で発表
・レポート作成
・まとめ、感想

# ■ 発表準備



「レポート作成に向けたお助け資料」 日露戦争の記憶

やるっきゃない歴史

日米開戦が歴史の転換点

学習課題

なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争する**ことを**選択したのか。

日露戦争の記憶（加藤陽子 とめられなかった戦争より）

四十歳代の共通体験

日米開戦の最大の推進力となった陸海軍の将校たち、とりわけ参謀本部・軍令部の中堅幕僚たち、彼らの内面にはいったい何があったのかについて考えてみたいのです。

ところで、彼らに共通するある体験がありますが、何だかわかりますか？答えは「日露戦争」です。日露戦争は 1904～05 年に戦われた戦争なので

日露戦争というものが、当時の少年

えば 1901 年生まれの昭和天皇です。

3～4 歳、裕仁親王の時代です。そのこ

父宮）と日露戦争ごっこに興じる様子を

また、当時の少年の多くは、たとえば

真やルポ、あるいは少年少女雑誌に載

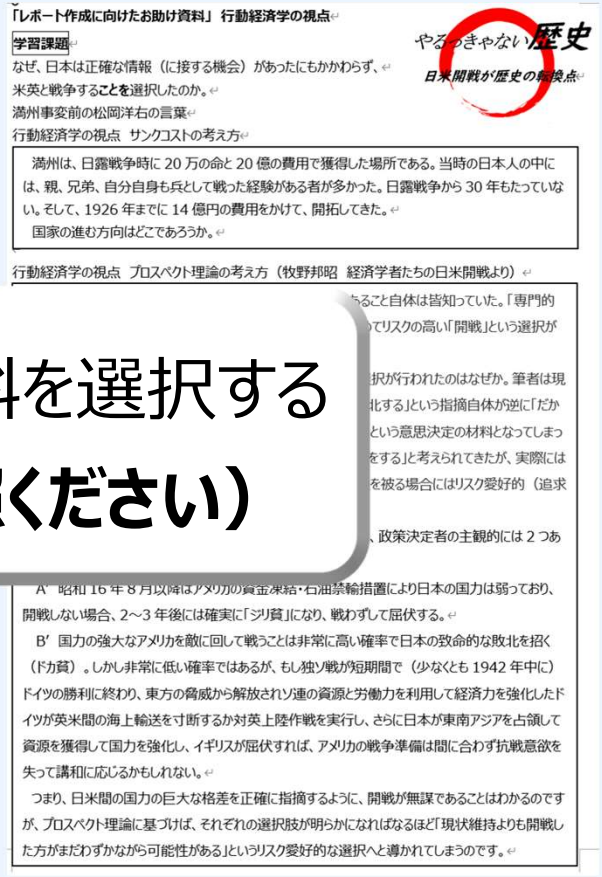
ば、戦争というものをある種のエンタテイン

しょうか。

こうして少年時代に刻みつけられた華々しい勝利の記憶が、長じて軍人を志す大きな動機となり、軍人になってからは模範的な戦いとして常に反製し続ける対象となったことは、疑いありません。そして、記憶はいつしか信念になる。1 対 10 もの国力差のある大国ロシアに勝ったではないか（その前には大国清に勝ったではないか）、それを思えば、どこが相手であろうときっと勝てる、という信念。日本海海戦のような大胆な短期決戦を挑めば、きっと勝てる、という信念。戦えば勝つ、という信念。

そのような彼らが 40 歳代になり統帥部の中核を担ったとき、開戦それも早期開戦を渇望したことは想像に難くありません。実際、彼らは日米開戦をためらう天皇にさまざまな情報を提供しては、開戦の決断を促しました。そして天皇も、ある段階で、「この戦争は武力でも勝てる」と思ったかもしれません。

昭和天皇もまた、統帥部の幕僚たちと日露戦争の記憶を共有する同世代の人だったからです。



「レポート作成に向けたお助け資料」 行動経済学の視点

やるっきゃない歴史

日米開戦が歴史の転換点

学習課題

なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争する**ことを**選択したのか。

満州事変前の松岡洋右の言葉

行動経済学の視点 サンクコストの考え方

満州は、日露戦争時に 20 万の命と 20 億の費用で獲得した場所である。当時の日本人の中には、親、兄弟、自分自身も兵として戦った経験がある者が多かった。日露戦争から 30 年もたっていない。そして、1926 年までに 14 億円の費用をかけて、開拓してきた。

国家の進む方向はどこであろうか。

行動経済学の視点 プロスペクト理論の考え方（牧野邦昭 経済学者たちの日米開戦より）

ること自体は皆知っていた。「専門的

てリスクの高い「開戦」という選択が

択が行われたのはなぜか。筆者は現

北する」という指摘自体が逆に「だか

という意思決定の材料となってしまっ

をする」と考えられてきたが、実際には

を被る場合にはリスク愛好的（追求

、政策決定者の主観的には 2 つあ

A′ 昭和 16 年 8 月以降はアメリカの資金凍結・石油禁輸措置により日本の国力は弱っており、開戦しない場合、2～3 年後には確実に「ジリ貧」になり、戦わずして屈伏する。

B′ 国力の強大なアメリカを敵に回して戦うことは非常に高い確率で日本の致命的な敗北を招く（ドカ貧）。しかし非常に低い確率ではあるが、もし独ソ戦が短期間で（少なくとも 1942 年中に）ドイツの勝利に終わり、東方の脅威から解放されソ連の資源と労働力を利用して経済力を強化したドイツが英米間の海上輸送を寸断するか対英上陸作戦を実行し、さらに日本が東南アジアを占領して資源を獲得して国力を強化し、イギリスが屈伏すれば、アメリカの戦争準備は間に合わず抗戦意欲を失って講和に応じるかもしれない。

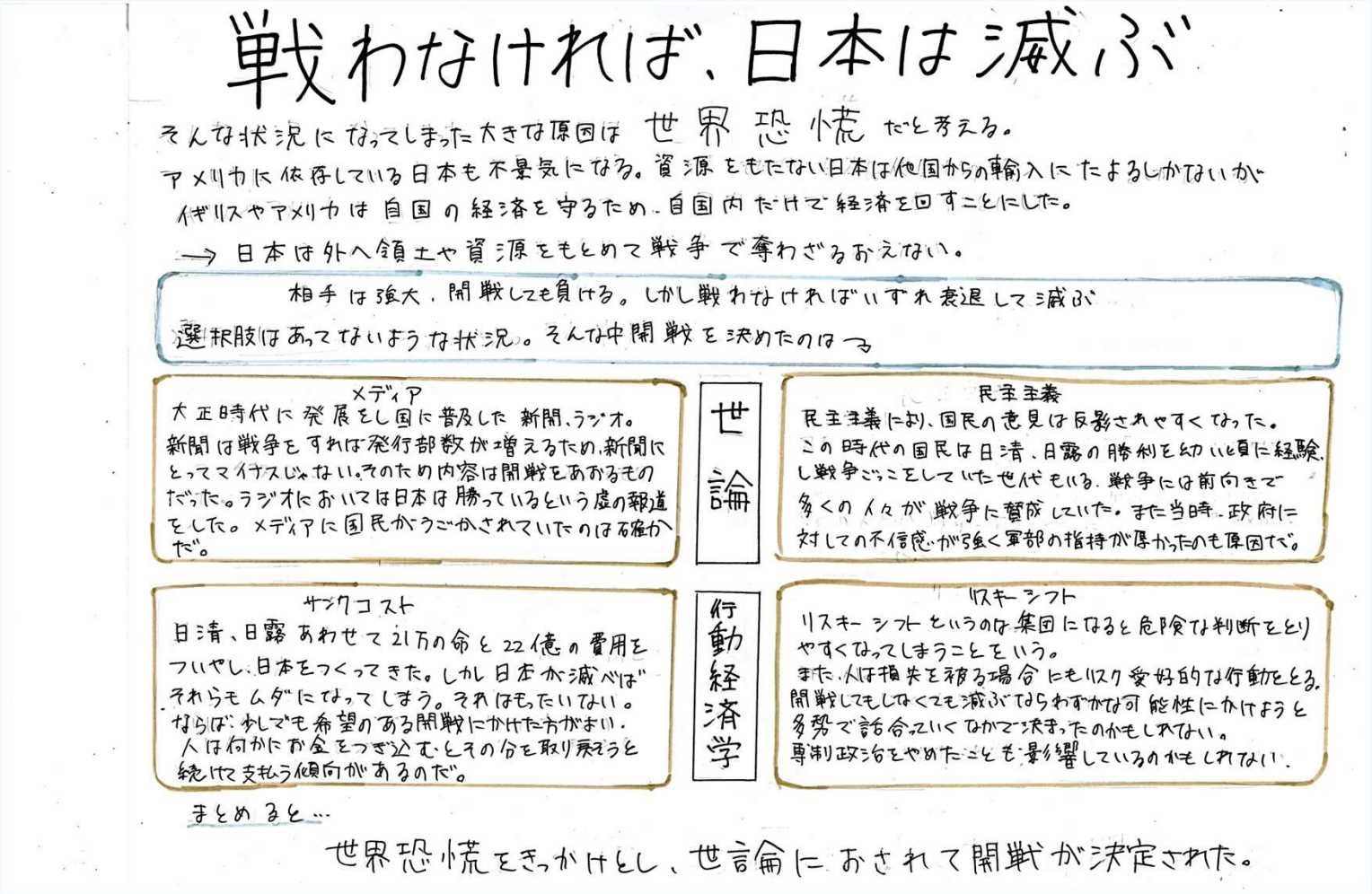
つまり、日米間の国力の巨大な格差を正確に指摘するように、開戦が無謀であることはわかるのですが、プロスペクト理論に基づけば、それぞれの選択肢が明らかになればなるほど「現状維持よりも開戦した方がまだわずかながら可能性がある」というリスク愛好的な選択へと導かれてしまうのです。

自分で必要な資料を選択する

**（プリントを参照ください）**

**これまでの授業内容を資料で提示、各自で選択する**

# ■ 屋台村発表（ポスター）



戦わなければ、日本は滅ぶ

そんな状況になってしまった大きな原因は 世界恐慌 だと考える。
アメリカに依存している日本も不景気になる。資源をもたない日本は他国からの輸入にたよるしかないが
イギリスやアメリカは自国の経済を守るため、自国内だけで経済を回すことにした。
→ 日本は外へ領土や資源をもとめて戦争で奪わざるおえない。

相手は強大、開戦しても負ける。しかし戦わなければいずれ衰退して滅ぶ
選択肢はあってないような状況。そんな中開戦を決めたのは →

世論

メディア
大正時代に発展し国に普及した新聞、ラジオ。
新聞は戦争をすれば発行部数が増えるため、新聞にとってマイナスじゃない。そのため内容は開戦をあおるものだった。ラジオにおいては日本は勝っているという虚の報道をした。メディアに国民がうごかされていたのは確かだ。

民主主義
民主主義により、国民の意見は反影されやすくなった。
この時代の国民は日清、日露の勝利を幼いと頃に経験し戦争ごっこをしていた世代もいる。戦争には前向きで多くの人々が戦争に賛成していた。また当時、政府に対しての不信感が強く軍部の指持が厚かったのも原因だ。

行動経済学

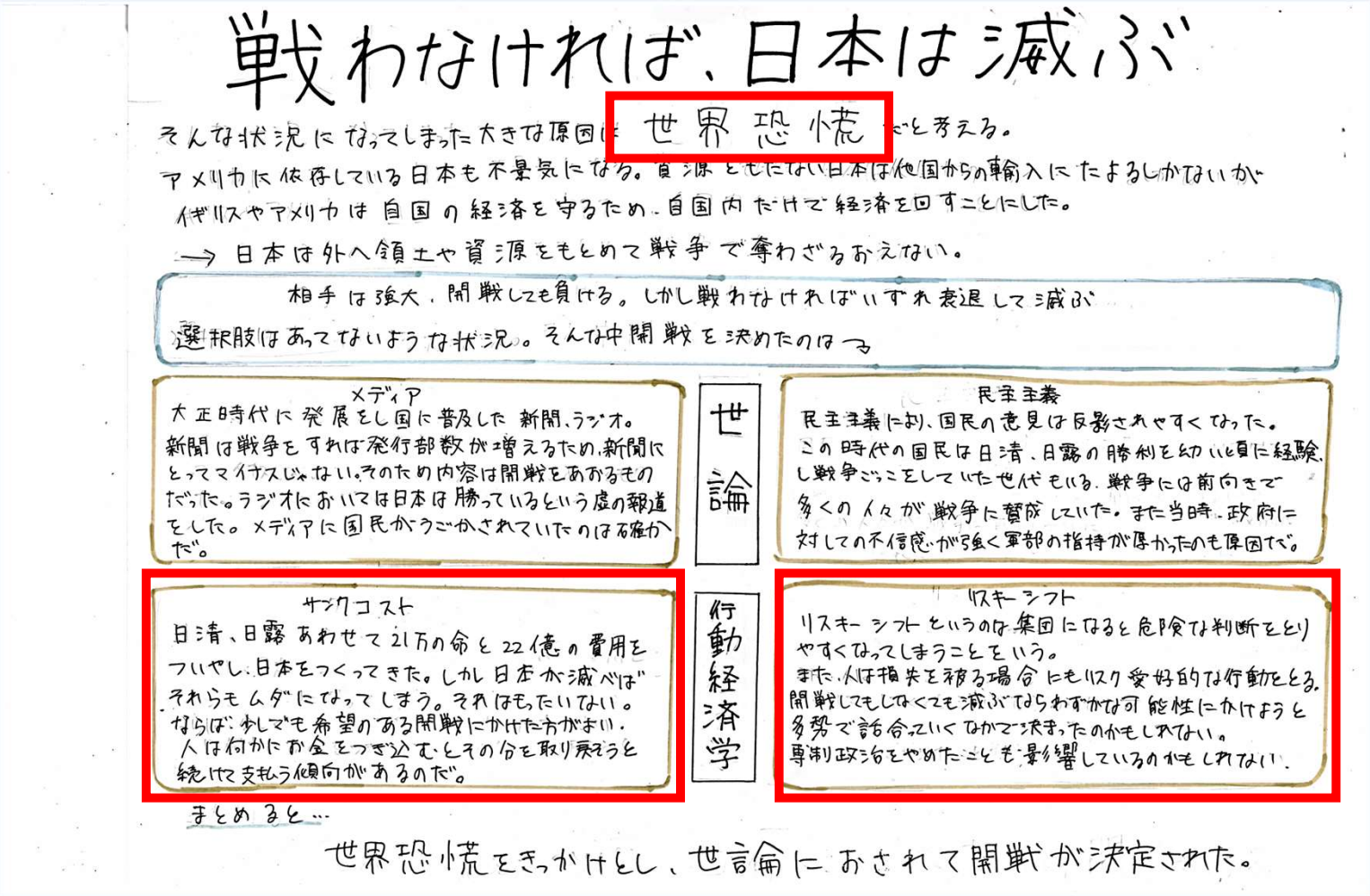
サンクコスト
日清、日露あわせて21万の命と22億の費用をついやし、日本をつくってきた。しかし日本が滅べばそれらもムダになってしまう。それはもったいない。
ならば、少しでも希望のある開戦にかけた方がよい。
人は何かにお金をつぎ込むとその分を取り戻そうと続けて支払う傾向があるのだ。

リスキーシフト
リスキーシフトというのは集団になると危険な判断をとりやすくなってしまうことをいう。
また、人は損失を被る場合にもリスク愛好的な行動をとる。
開戦してもしなくても滅ぶならわずかな可能性にかけようと多数で話合っていくなかで決まったのかもしれない。
専制政治をやめたことも影響しているのかもしれない。

まとめると…
世界恐慌をきっかけとし、世論におされて開戦が決定された。

生徒A

# ■ 屋台村発表（ポスター）



戦わなければ、日本は滅ぶ

そんな状況になってしまった大きな原因は 世界恐慌 だと考える。
アメリカに依存している日本も不景気になる。資源ともたない日本は他国からの輸入にたよるしかないが
イギリスやアメリカは自国の経済を守るため、自国内だけで経済を回すことにした。
→ 日本は外へ領土や資源をもとめて戦争で奪わざるおえない。

相手は強大、開戦しても負ける。しかし戦わなければいずれ衰退して滅ぶ
選択肢はあってないような状況。そんな中開戦を決めたのは？

世論

メディア
大正時代に発展をし国に普及した新聞、ラジオ。
新聞は戦争をすれば発行部数が増えるため、新聞にとってマイナスじゃない。そのため内容は開戦をあおるものだった。ラジオにおいては日本は勝っているという虚の報道をした。メディアに国民がうごかされていたのは確かだ。

民主主義
民主主義により、国民の意見は反影されやすくなった。
この時代の国民は日清、日露の勝利を幼いころに経験し戦争ごっこをしていた世代もいる。戦争には前向きで多くの人々が戦争に賛成していた。また当時、政府に対しての不信感が強く軍部の指持が厚かったのも原因だ。

行動経済学

サンクコスト
日清、日露あわせて21万の命と22億の費用をついやし、日本をつくってきた。しかし日本が滅べばそれらもムダになってしまう。それはもったいない。
ならば少しでも希望のある開戦にかけた方がよい。
人は何かにお金をつぎ込むとその分を取り戻そうと続けて支払う傾向があるのだ。

リスキーシフト
リスキーシフトというのは集団になると危険な判断をとりやすくなってしまうことをいう。
また、人は損失を被る場合にもリスク愛好的な行動をとる。開戦してもしなくても滅ぶならわずかな可能性にかけようと多数で話合っていくなかで決まったのかもしれない。
専制政治をやめたことも影響しているのかもしれない。

まとめると…
世界恐慌をきっかけとし、世論におされて開戦が決定された。

行動経済学の視点を盛り込みながら、資料作成
学習内容と関連する項目を選択

# ■　学習のまとめ（レポート作成）

**ねらい：学習課題に対して自分の言葉で説明しよう。**

教：P210～P243

**「戦争の授業のまとめ」**　　組　　番　名前　　歴－72

学習した内容からみて結論に妥当性がある。理由が詳しくかつ誤りがなく、複数の視点の関連性が明らかである

小単元の振り返り

○　学習課題の予想、自分の問いの設定、毎回の授業の振り返りで問いの解決や問いの再設定、屋台村発表に向けたポスター作り、屋台村発表など今回の授業について、自己評価をし、自分の所見を書いてください。　　自己評定（　1　2　3　4　5　）

○　この学習では二度の世界大戦について学びました。二度とこのようなことが起きないために、**国際社会**は、**日本**は、**あなた**は何ができるか、考えを述べよう。

| | |
|---|---|
| 国際社会 | |
| 日本 | |
| あなた | |

○　この学習から学ぶことは何か。自分の意見を述べましょう。

# ■　学習のまとめ（レポート）

レポートの評価

| 評価基準 | |
|---|---|
| A | １８％ |
| B | ６９％ |
| C | １２％ |
| 意思決定 | ３５％ |

**行動経済学の視点を生かした意思決定に関する記述がみられた。**

## ■　まとめの問い

●二度とこのようなことが起きないために、何ができるのか。

●この学習から学ぶことは何か。

↓

**歴史上の選択を経済の視点を含めて学び、**
**現代に生きる私たちに生かす**

# ■　まとめ・感想

生徒Ａ

歴史の偉人ですら、雰囲気で判断してしまうことがある。それは今も同じ。周りに左右され視野が狭くなってしまうこともある。そのために**自分や他人の考えが偏ってしまっていないか、お互いに助け合っていく必要がある。**今の自分たちが未来から過去をみて判断しているように、**自分の判断を俯瞰してみて、冷静でいられるようになりたい。**

# ■　まとめ・感想

生徒Ｂ

日米開戦の決断を考えてみたら、冷静な状況判断をしたうえで、リスクの高い選択を精神論からしていたことを強く感じた。（中略）
だからこそ、**有権者たちは、自分の意思決定が社会にどう影響するのか、身の回りの、地域の、国の、世界の人々を苦しめる選択ではないか。合理的に、慎重に考えて行動するべきなのだ。**成人となれば有権者となり意思決定を行うようになる。その時の判断の仕方や責任について私は学んだ。

# ■　授業について

行動経済学の視点を取り入れる

| 名称 | 振り返りで出てきた数 |
|---|---|
| プラシーボ効果 | １９ |
| 現在バイアス | 2 |
| 同調性バイアス | **１８** |
| プロスペクト理論 | **１８** |
| 確証バイアス | １０ |
| サンクコスト | **４４** |
| 現状維持バイアス | 2 |
| 正常バイアス | １０ |
| 内集団バイアス | 0 |
| リスキーシフト | **２８** |

**学習内容と関連付けがみられている**

# ■　成果

歴史を学ぶ意味

## 行動経済学の視点

バイアスを知り、間違いのパターンを知る。歴史をいかせた

問いをたて、追究

## 仮説の追究

様々な形で学び合う姿が見られ、内容が深まった。

# ■　課題

他の単元でも実践できるのか

## 行動経済学の視点を絞る

関連付けが曖昧になったものもあった。

自ら問いを追究する姿とは

## 仮説の追究をいかに行うか

追究過程を見取りきれないものもあった

# ■　今後の構想

⑵ 現代の日本と世界　とのつながり

## 歴史学習を大きな目で見てみる

長期トレンドの視点

1905年（ポーツマス条約）→1945年（終戦）→1985年（プラザ合意）→2025年？

これから何をすべきか、私たちが生きるであろう来年はどのようになっているのか。

資料があれば、それを基に授業をつなげていきたい。

また、歴史学習における構想ともつなげていきたい。

↓

**生徒の頭の中に「もやもや感」を残しておきたい**

# ■　教材研究で使用した資料

詳説日本史図録・世界史図録,山川出版社
渡部竜也・井手口泰典,社会科授業づくりの理論と方法,明治図書,2020年,p.228
井上寿一,第一次世界大戦と日本,講談社現代新書,2014年,p.274
板谷敏彦,日本人のための第一次世界大戦,角川ソフィア文庫,2020年,p528
ウェブサイト「カイゼン視点からみる第一次世界大戦」
NHKスペシャル　新ドキュメント太平洋戦争 2021年～放送
水木しげる,コミック昭和史①～⑧,講談社文庫
加藤陽子,NHKさかのぼり日本史②昭和 とめられなかった戦争,2011年,p138
服部龍二,NHKさかのぼり日本史外交編⑵昭和 “外交敗戦”の教訓,2012年,p186
牧野邦昭,経済学者たちの日米開戦,新潮選書,2018年,p270
大竹文雄,行動経済学の処方箋,中公新書,2022年,p236
大竹文雄,あなたを変える行動経済学,東京書籍,2022年,p239
大塚英志,大政翼賛会のメディアミックス,平凡社,2018年,p303
細谷功,仕事に生かす地頭力,ちくま文庫,2015年,p.332
細谷功,フローとストック 世界の先が読める「思考」と「知識」の法則,KADOKAWA,2024年,p.240